

SR-S716C2 V12.05 変更内容一覧

□機能追加

| No. | 項目 | 内容 |
|-----|-----------------------------|---|
| 1 | VLAN情報の簡易表示コマンドの追加 | VLAN情報の簡易表示コマンド(show vlan brief)を追加しました。 |
| 2 | WEB設定画面の改善 | WEB設定画面のタイトルバーに機種名を表示するようにしました。装置名称設定時には装置名称(ホスト名)を表示します。 |
| 3 | 未サポートのSFP/XFPモジュール種別のチェック強化 | 未サポートのSFP/XFPモジュール種別が実装された場合は、モジュールの光信号出力を有効にしないよう変更しました。 |

□修正内容

| No. | 影響範囲 | 内容 |
|-----|---------------|--|
| 1 | V01.00～V12.03 | PIMによるマルチキャストパケットの高負荷転送時、送出先インタフェースのダウン事象が発生すると続いて装置がシステムダウンする場合がある。 |
| 2 | V01.00～V12.03 | 本装置にsshあるいはsftpで接続したとき、装置内処理に遅延が発生し、セッション監視がタイムアウトやVRRP切り替えが発生するなどの運用に影響を及ぼす場合がある。 |
| 3 | V01.00～V12.03 | Web認証が定義矛盾による無効な状態から、その定義矛盾要因を解消してもWeb認証が有効とならない場合がある。 |
| 4 | V01.00～V12.03 | ether egress permissionコマンドにて転送許可ポート指定されたポートが、リンクアグリゲーションまたはバックアップポートで、かつグループ構成を変更した場合に、転送許可ポート設定が変更されない。 |
| 5 | V12.01～V12.03 | リンクアグリゲーションに設定したVLAN転送設定(vlan forwardコマンドで設定)されない場合がある。 |
| 6 | V11.00～V12.03 | IEEE802.1X認証ポートでループ状態が継続しているにも関わらず、ループ検出機能によるポート遮断状態が解除される場合がある。 |
| 7 | V01.00～V12.03 | STP機能を無効としBPDU転送モード有効とした状態から、STPを有効(BPDU転送モード無効)に設定変更すると、STPが有効にも関わらず、受信したBPDUを同一VLANのポートに転送し続ける。 |
| 8 | V11.00～V12.03 | IPv6マルチキャストフレームを、CPUポートにて受信すると、“show ipv6 traffic udp”で表示される“delivered”の統計カウンタが不正な値となる場合がある。 |
| 9 | V11.00～V12.03 | 端末からICMPv6リダイレクトフレームを受信すると、リダイレクト先のリンクローカルアドレス(Target Address)と、その経路を使用する別セグメントのアドレス(Destination Address)が一定時間超過しても、Neighbor Cacheエントリからエージアウトされずにエントリし続ける、または最大値を超えてエントリされる場合がある。 |
| 10 | V12.00～V12.03 | Web設定画面にて、ARP認証の通信妨害の定期送信間隔指定で設定可能範囲が0、10～43200秒(12時間)にもかかわらず、単位がデフォルトで「日」がプルダウン表示される。 |
| 11 | V10.00～V12.03 | VLAN情報の基本情報の「プロトコル条件」の修正時、「一覧へ戻る」を選択した場合に、修正前のデータに戻らず、修正後の内容に変更されてしまう。 |
| 12 | V12.00～V12.03 | 不当な内容を含むLLDP隣接情報パケット受信後に、show lldp neighbors detail コマンドを実行すると装置がループしたりシステムダウンすることがある。 |
| 13 | V12.00～V12.03 | LLDP送信設定機能において、管理者が装置へ設定するマネージメントアドレス情報がLLDPDU(最大1500バイト)に収まりきらなかったとき、システムダウンする。 |
| 14 | V12.00～V12.03 | 動的定義変更にて既に設定済のMACアドレス認証不要端末アドレスエントリ設定が無効になる場合がある。 |
| 15 | V10.00～V12.03 | RADIUSサーバへ認証要求中にMACアドレス認証初期化コマンド(macauthctl)実行すると稀に認証失敗となる場合がある。 |
| 16 | V03.00～V12.03 | MACアドレス認証成功端末がポートムーヴして、移動前後で認証割り当てVLANが変更となった場合に移動先ポートで通信できない場合がある。 |
| 17 | V10.00～V12.03 | ハードエラーが常時発生している状態で、clear logging errorコマンドを発行するとFLASHメモリ内に同一ハードエラーログ情報が重複して記録されることがある。 |